カラーブロックを用いた高校生の進路及びまちづくりに関する意識調査

*小形雄輝（社会情報学科4年 2013810）
加賀拓弥(社会情報学科4年 2013071)
松尾玲美(経済学科4年 2013841)
水野広崇（社会情報学科4年 2013844）

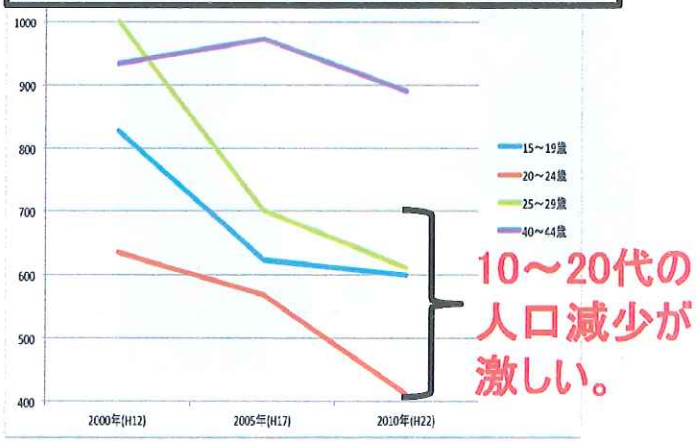
目次

①研究の背景
②研究の目的
③研究の手法
④研究の結果
⑤まとめ
⑥参考文献

研究の背景

岩内町人口推移

岩内町の10～20代の人口推移



◆10代～20代の転出による社会減の原因

町内に高校卒業後の進路がない

➡町外への進学・就職を選択

（『岩内町　2016年　人口ビジョン・総合戦略』より作成）

研究の目的

◆背景から見えてくる町の抱える課題

進学の為に町外へ行き、その後地元に戻り生活を営むという
選択をしない

➡若年層の人口減少に繋がっている。

これから進路を選択する高校生が

将来の地元と自分との関係に
どのようなビジョンを持っているのか。

仮説

①高校生たちは町の将来に危機感を持っておらず、将来の地元と自分を紐付けて考えてはいないだろう。

②岩内町らしいものに対して魅力を感じているのではないか。

↓

将来Uターンしてくる可能性があるのではないか

ワークショップを用いた調査手法

アンケート調査

定量調査(Whatを知る)

明確な数値や量を調査

インタビュー調査

定性調査(,Whyを知る)

数量や割合では表現できないものの意味を調査

ワークショップ調査

検証調査×発見調査

手を動かし主体的に考えてもらうことで潜在的な意識を表現

↓

今回の研究では、調査手法として適さない。

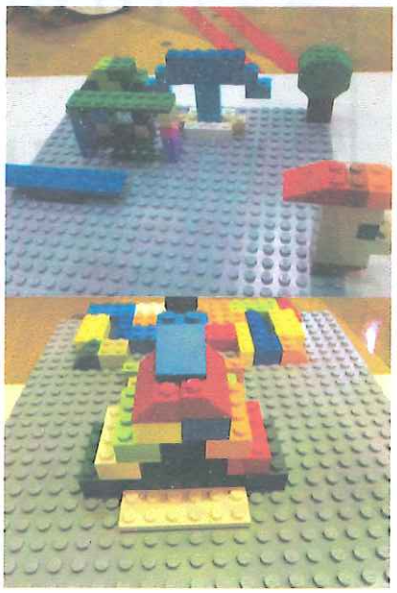
↓

高校生の潜在的な意識を調査するため、今回はワークショップでの調査を実施した。

調査手法①

ワークショップの実施

意識調査としてレゴブロックという新しいツールを用いたワークショップを行った。



レゴブロックを用いることの優位性

・価値観やビジョンなど形のないものを形作ることができる。

(ロバートラムスセン著「戦略を形にする思考術」2016より)

⇒レゴシリアスプレイとして多くの企業・自治体で実践されているプログラム。

調査手法①

ワークショップの実施

実施要領
日時：2016年3月17日
参加者：岩内高等学校3年生114人
場所：岩内高校体育館

第1テーマ（まちづくり）

- 恋人をデートに連れていくなら？
- 子供の頃よく遊んだ場所は？
- 岩内町の自慢できるところは？
- 自分のクラスを表現してください。

↓ 制作後

第2テーマ（進路）

10年後の自分の姿を想像してみよう

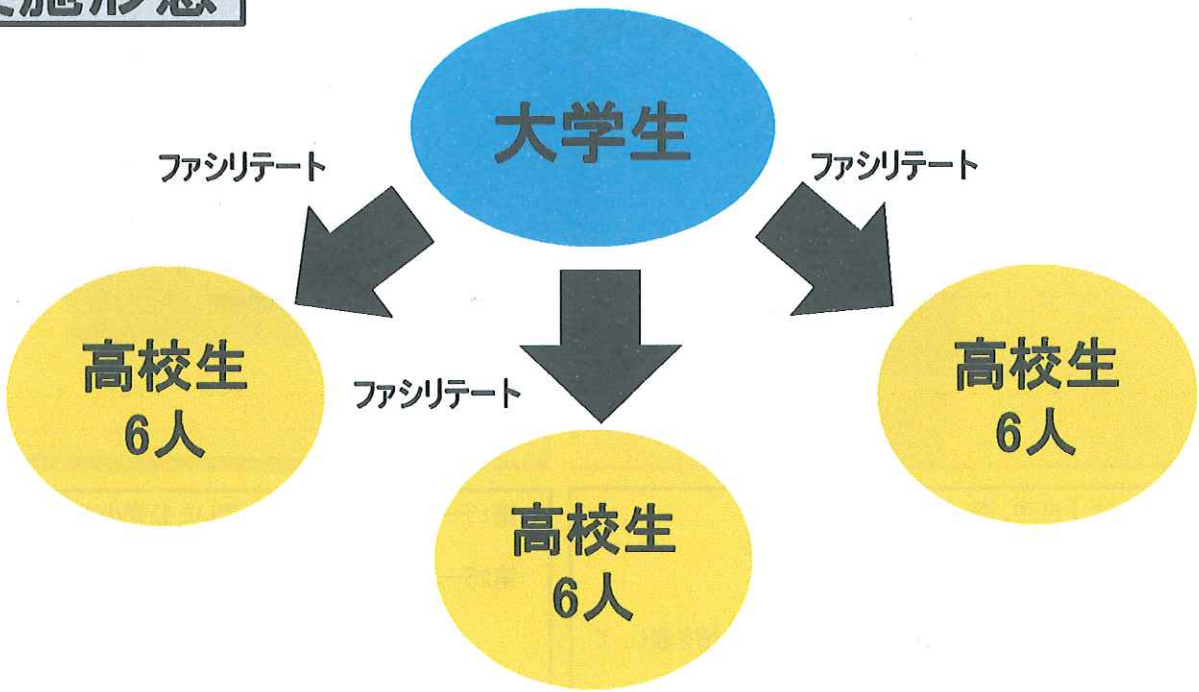
↓

高校生同士で共有

調査手法①

ワークショップの実施

実施形態



調査手法①

ワークショップの実施

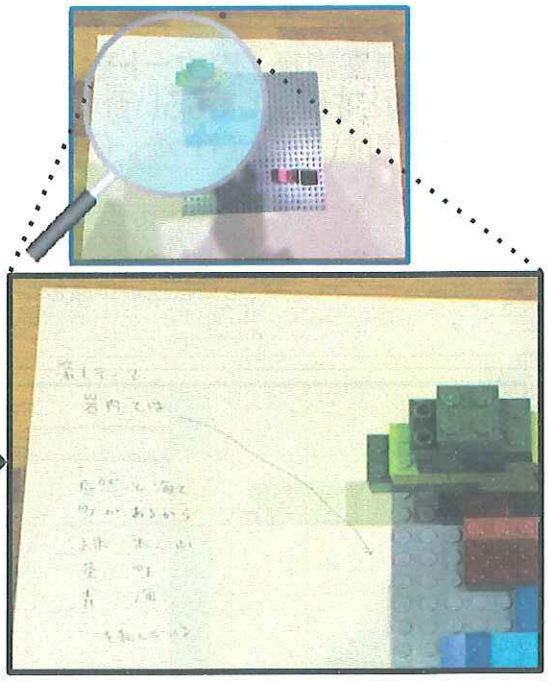
2つのテーマに沿い、自由に作品制作をしてもらった。

第1テーマ

まちづくり

第2テーマ

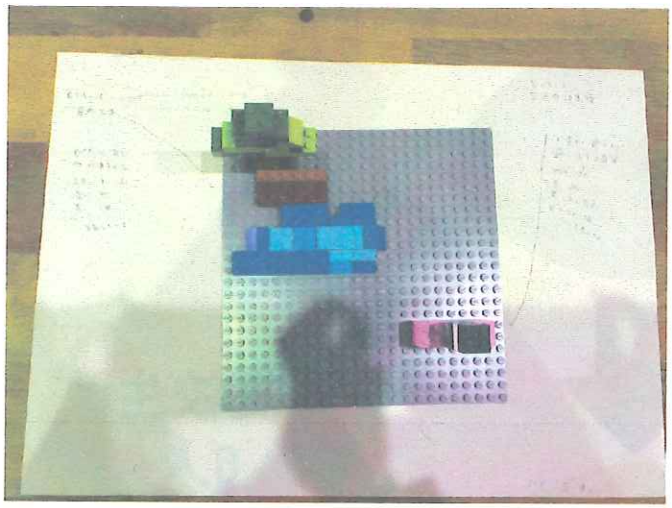
進路

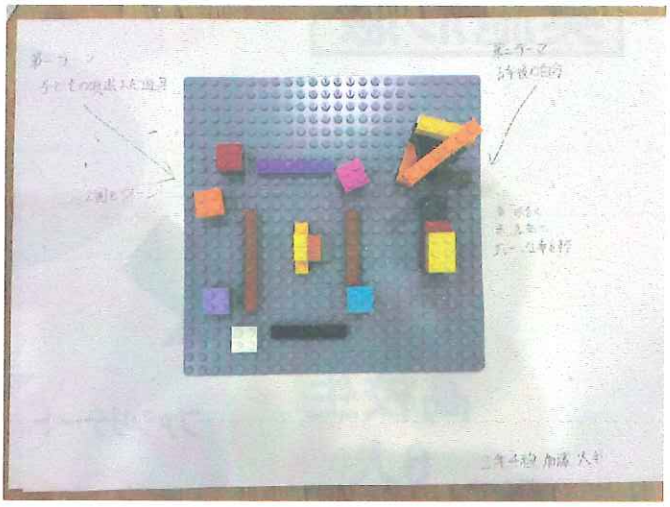


作品のテーマ、解説を記入してもらい作成者の意図が分かるようにした。

調査手法①

高校生が制作した作品例





第1テーマ「自然、海、町」
岩内といえば自然、海、町だから

第2テーマ「仕事をして過ごしている自分」
ピンクが肌、赤が血で、他の色が心情を表し ている。

第1テーマ「子供の頃遊んでいた公園の遊具」

第2テーマ「10年後の自分」
明るく元気に仕事をする。

調査手法①

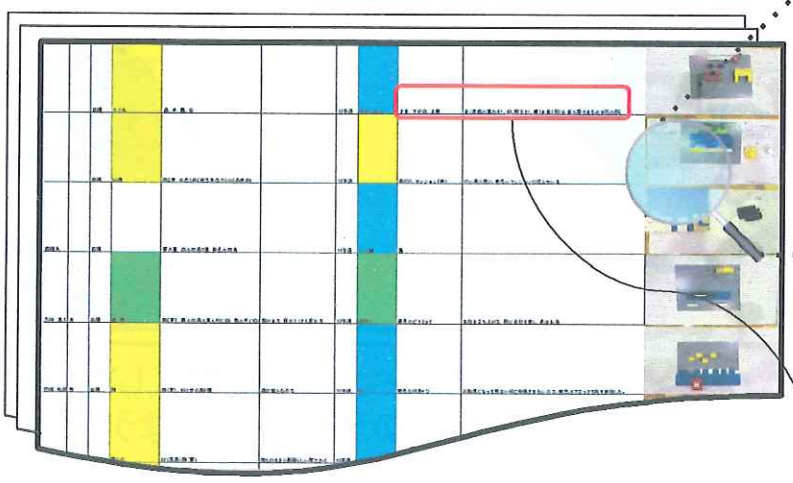
カルテの分析

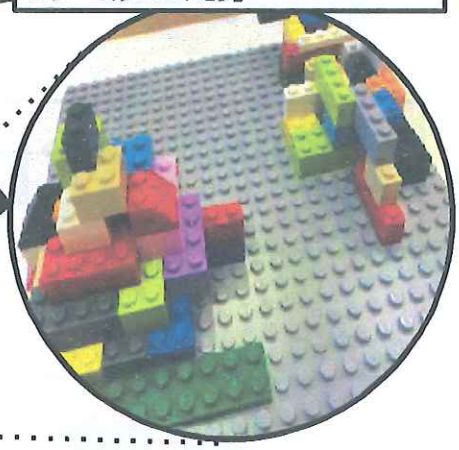
ワークショップ実施後、アンケートを配布し、感想や意識の変化などを記入してもらい全作品のデータをもとにカルテを作成し分析を行った。（下図）

テキスト分析により、色・形という観点から高校生の作品を定性的に分析。

『自分のクラスを表してください』

「自分の中でクラスのメンバーのイメージカラーであてはめた。」



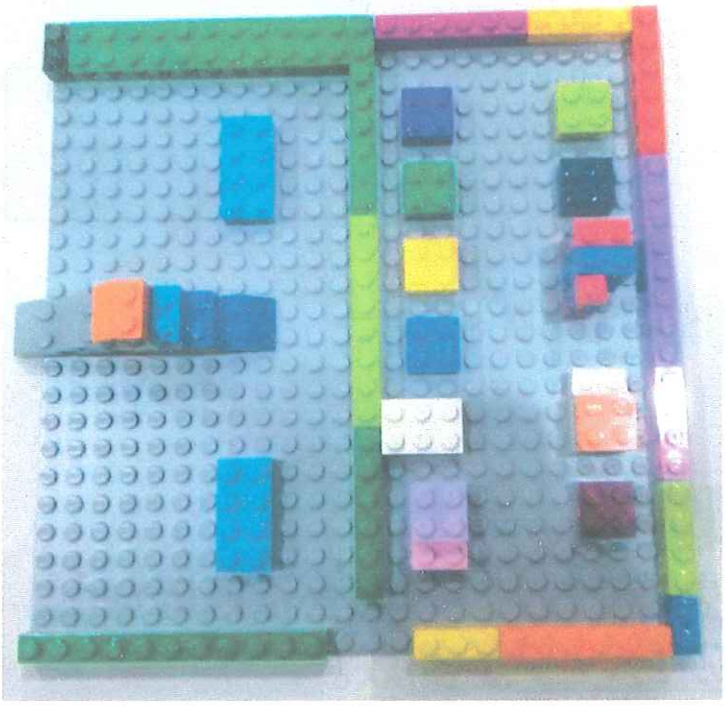


『10年後の自分を表現してください』

赤（家庭の温かさ），白（明るさ），黄（お金）形（お金大事であるので円の形）

調査手法①

カルテの分析



色、形から定性的に分析

作品名をもとに作品を分析

・使っている色、形から何を表現しているのかを作品名や、記入してもらった解説に沿って分析。

・ブロックの配置、色の並びにも考慮し分析をした。

⇒写真の作品では、「ファッション」にあふれた生活をしたいという作品名で作品を表現。
カラフルな色の服を色で表現。
また都会での明るい生活を外側のブロックの壁で表現していた。

調査手法②

分析結果（まちづくり）

恋人をデートに連れていくなら

海などの岩内町らしい回答は少数であり、岩内に存在しない動物園、遊園地などといった回答が多数であった。

岩内町の自慢できるところ

海や山、アスパラ、水産業、川など、自然に関する回答が大多数を占めていた。

子供の頃遊んでいたところ

公園という回答が多く、岩内町らしい海などの回答が少なかった。

自分のクラスを表現してください

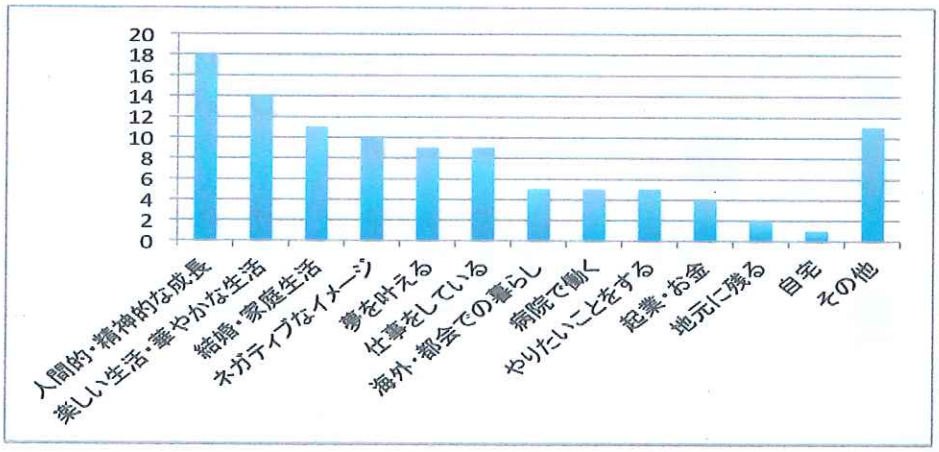
自分のクラスには一定の評価をしておりクラスでの生活への不満は少ない事が分かった。しかし他クラスとの交流の少なさに問題を感じている作品が一定数あった。

➡ 潜在的な意識としては岩内町らしいものに対して魅力を感じていない。

調査手法②

分析結果（進路）

10年後の自分を想像してみよう



・将来の理想を具体的に描いている作品（少数）
・漠然とした将来を考えている作品（多数）

岩内町に関する内容が少しでも入った回答はほぼなく、自分なりの自由な将来のイメージが多数。

まとめ

レゴを用いたワークショップを行ったことで、高校生のより素直で、潜在的な意識を調査することが出来た。

ワークショップの有効性

アンケート調査と比較した際に、教科書的な回答ではなく、信ぴょう性のある回答を狙い通りに得ることが出来た。

アンケート・インタビュー

教科書的回答

ワークショップ

潜在的回答

まとめ

高校生は町の未来と自分の未来を
関連付けて考えることが出来ていなかった。

町の事と自分の将来を**独立**して考えている。

キャリアビジョン

職業
（社会人としての生き方）

生活
（その人らしい生き方）

「職業」より「**生活**」に関する事に重点を置いたキャリア教育を行うべきである。

参考文献

- 岩内町（2016年）「岩内町総合戦略」「人口ビジョン」（http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/?page_id=30210）
- 釘山健一（2008年）「会議のファシリテーションの基本がイチから身につく本」（すばる舎）
- 藤山浩（2015年）田園回帰1%戦略: 地元に人と仕事を取り戻す（農文協）
- 「季刊地域」編集部（2015年）総力取材 人口減少に立ち向かう市町村（農文協）
- 小田切徳美、筒井一伸（2016年）田園回帰の過去・現在・未来: 移住者と創る新しい農山村（農文協）
- ロバートラスムセン（2016年）戦略を形にする思考術（徳間書店）
- Per Kristiansen, Robert Rasmussen（2014年）Building a Better Business Using the Lego Serious Play Method（Wiley）